

アフガニスタン・気候変動対策事業

アフガニスタンを忘れない—人々に寄り添う中長期の支援

社会課題



©Meer Abdullah/ARCS

アフガニスタンは、1970年代から続く紛争や内紛によって経済や社会インフラが壊滅的な被害を受け、2021年に起きた政変の影響と新型コロナウイルス感染症のまん延も重なり、人びとはかつてないほど深刻な人道危機に直面しています。さらに、**気候変動に伴う気温上昇や気象の変化**が様々な自然災害を引き起こしています。特に、**長引く干ばつ**は、国民の8割が生計を依存する農業の土地と家畜を奪い、人々の生活を困窮させ、故郷を離れることを余儀なくさせています。

赤十字の解決策

- 緊急支援が必要なアフガニスタンで、外部からの支援だけでなく、**人々が自らの力で気候変動がもたらす影響に対応していくことを目指す、長期的・複合的視点**を踏まえた5か年の開発事業を実施
- 全国34州の全てに活動拠点をもち、**中立・公平・独立の原則と信頼に基づき、他の組織にはアクセス困難な地域の人々にも支援を届けることのできるアフガニスタン赤新月社が活動をリード**
- 予測困難な社会情勢の中でも、国際赤十字が関係機関との調整を担い、信頼性と透明性の高い事業の遂行をバックアップ

活動分野	対象	活動内容
生計支援	2つの州(サマンガン・ヘラート) 40村(500世帯)	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動の影響に適応した生産性の高い農業の普及 職業訓練と資金支援による新たな生計手段の創出 干ばつに強い樹木の植樹による荒廃した土地の緑化と収穫物販売による収入増加
防災・減災	2つの州(サマンガン・ヘラート) 40村(4800世帯) 20校(教員・生徒1万9,000人)	<ul style="list-style-type: none"> 村の自主防災組織の結成や学校における防災教育などを通じたコミュニティと学校が災害に備える力の強化 ボランティアの養成を通じた、村の人びとを対象とする気候変動や防災・減災に関する正しい知識の普及

【SDGsとの関係性】



2021年、村の課題解決に向けたコミュニティ活動を開始

■ 村々のニーズ調査やボランティアなどへの研修を実施

気候変動に適応し暮らしていくために最も有効な活動を特定するため、事業対象地域の実態や支援ニーズを調査。また、活動を担うアフガニスタン赤新月社のボランティアとスタッフに対し、支援を受けとる人びとの声を汲み取り活動に反映するためのスキルや、事業分野(防災・減災、気候変動、救急法など)の研修を実施しました。

■ 気候耐性の高い植樹を通じた緑化、収入源の確保

アーモンド、ピスタチオ、リンゴなど、干ばつに耐性のある樹木18万本の苗木を873世帯に配付。植樹は脆弱な土地の地盤強化と緑化の効果に加え、収穫物を販売につなげることで村の人々の貴重な収入源となります。



各村の一軒一軒をまわり、支援ニーズを調査。©ARCS



苗木を受け取り満面の笑みを浮かべる受益者©ARCS



技術スタッフから植樹のレクチャーを受ける地域住民たち©ARCS

今後予定している活動

【生計支援】

- 事業地の市場ニーズ調査に基づく、気象に左右されない新たな生計手段の提案・職業訓練の実施
- 専門家チームによる住民への樹木の適切な管理・育生支援
- 貧困世帯や避難民への食料配付など、緊急的なニーズに応じた支援

【防災・減災】

- コミュニティにおける自主防災組織、学校における学校安全委員会の設立
- 災害リスクに基づく防災マップや安全計画の策定、防災訓練の実施
- 災害対応キットの配備や救急法研修の実施
- 参加型保健衛生研修を通じた、水や衛生についての正しい知識の普及